

**コミュニティ
だより**

徳島市
徳島市コミュニティ会
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511

肉町小学校 オリエンテーリング

内町まちづくり協議会
会長 宮澤 武志

内町まちづくり協議会は各種の事業を実施しているが、長期間に渡り肉町小学校と連携して肉町地区の名所・旧跡・史跡などをオリエンテーリングして、児童・教職員・PTA・地元説明役（ボランティアガイド）に好評を得ている。「肉町小学校オリエンテーリング」を紹介したいと思います。

コミュニティセンター初代会長山内鐵士氏の提案により、二十五年前の平成八年に始まりました。今回で八回目となります。肉町地区は、蜂須賀

家のお城があった城山を中心とした地区であり家老や町人が住み、城下町として発展してきました。そのため多くの遺跡や名所、史跡があります。肉町小学校は城山の西側にあり、かつてはお花畑という立派な園庭と屋敷の跡地にあります。通学している児童は地元でありながら深く歴史、意味を考えず何となく通っているようなところがありました。自分達の住む地域の歴史や旧跡、名所をよく知ることが有意義な事と思います。しかも専門家が説明するのでは

なく、地元ボランティア活動の皆様が自分なりに歴史や由来を勉強し、地元児童に説明することに大きな特色があります。説明の中には不十分で分かりにくい事もあると思いますが、ボランティアの皆様は必死に勉強し、児童も一生懸命説明を受けることに一体感が生まれ教育的成果をあげています。地区住民と学校が連携し、共に子どもを育成するという目的もあります。

指定されたポイントにボランティア活動のガイド役が待機し、十名程度の班に分かれて徒歩で廻っていきます。全校生徒が参加するのでかなり



明していただきました。地域住民と学校が共に連携し地域で人を育てるという目的は今回も大きな成果をあげることができました。参考に各ポイントは次の通りです。

- ◎蜂須賀家政銅像◎小便小僧
- ◎海食痕と貝塚と鳥居龍蔵先生◎藩政の松と関寛齋◎福島橋と人柱◎鷲の門◎舌石◎徳島城博物館◎香風台と花島屋敷跡◎松江邸跡◎藍場浜公園
- ◎水際公園◎事代神社の十三か所です。

近くに寄られたとき、時間のある時は皆さん訪ねてください。新しい郷土の発見につながるかもしれません。

の集団になり、引率は教職員だけでは不足しますのでPTAの皆様にも協力していただきました。今回は令和二年十月二十二日（木）に行いました。雨模様様の天気でありましたが午前中は何とか雨も降りませんでした。児童は各ポイントでスタンプを押してもらいポイントを廻っていきます。九時から開始し約二時間で十三ポイントを全員無事訪ねることが出来ました。帰校して閉会式では児童全員充実した表情でした。



ボランティア活動の二十三名のガイドさんも勉強して、身に着けた知識で一生懸命説

沖洲地区と津田地区を結ぶ

沖洲コミュニティ協議会

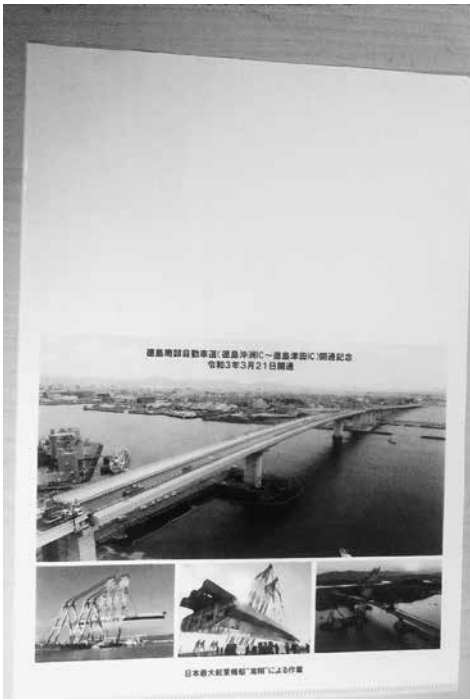
「徳島南部自動車道」沖洲IC～津田IC間の四年数か月に亘る工事が完了し、令和三年三月二十一日(日)に開通記念式典が行われました。

新町川橋の工事最終に、日本最大である起重機船「海翔」が来て、橋中央部を吊り上げてドッキングする時には、県内外から多くの方が訪れ、工事を見守っていました。当協議会では、写真のような記念ファイルを作成し、住民の方などに配布する予定です。

また、工事関係者のご好意により、沖洲小学校六年生が



起重機船「海翔」による作業 (2020.12.5)



開通記念に作成したクリアファイル

小学校生活最後の思い出に、舗装される前の地面に、好きな絵を描かせていただき記念に残すことができました。

開通記念式典の最終に交流式として、新町川で分断された隣の地区が、数分で往来できることを祝って、沖洲・津田小学校五年生の児童と、沖洲地区・津田地区の住民代表の約三百人が、それぞれの地区を歩いて出発し、橋の中央部で出合い、児童代表と両コ



絵を描く沖洲小学校6年生 (2020.12.8)

コミュニティ協議会会長の四人で、未来宣言をする予定でしたが、荒天のため中止となり、参加予定者一同落胆いたしました。

最後に、この橋からは、紀伊水道の全貌が見え、晴れた

日の早朝には日の出が大変美しいので、この橋を渡って沖洲・津田地区にお出かけください。

「くれば会」活動への期待

応神町コミュニティ協議会
会長 濱井 利教

応神町にはおもしろい名前のお年寄りの集まりがある。「くれば会」という。いろいろな活動をマイペースで行っている。時には町内のお店に集い昼食会、時にはコミセンの行事に合わせて清掃奉仕と気軽に活動されている。これまでお年寄りの活動といえ、公民館の「〇〇学級」といった活動が多く見られていたが、少し雰囲気が違う。公民館の活動もテーマと内容で参加者の雰囲気は変わる。昨年日赤の指導員さんを講師に招き、コロナ対策の研修を

行ったが、実に真剣な態度で研修に参加されていた。だが、「くれば会」では柔らかさを感じるのである。その日の都合や体調に合わせて出欠を決めているようにも感じる。「こられるんだったら、くれば」「きたいんだったら、くれば」の考え方で、変に枠を入れるのではなく、自主性に任せて行ったが、コロナ禍でコミセンの収容可能人数に迫る参加者であった。「ビンゴ」と声を出し、喜々として商品を受け取る姿は、何とも言えない



ものであった。日常のちょっとした喜びを感じた。

「くれば会」は数人の人たちのアイデアから始まったと聞いている。お気づきの事と思いますが、「くれば」がキーワードになっている。

「気になるんだったら来てみたら（くれば）」「来てみて良かったら、また来てみたら（くれば）」なのである。コミュニティの今までの取り組みには、このような発想はなかったかもしれない。もちろん、参加者が満足し「また、行こう」と思う内容を考えることも必要なのだが、「くれば会」では自分達の手で運営を進めている。準備をするのも大変だが、多くのお年寄りが、そのことよって繋がりがや生きる力を得ることができれば、こんな大切なことはないなと思えた。「くれば会」は、今年度から町内美化をかねて、花壇づくりを始めようとしている。お年寄りが、生き生きと活動して生活ができるように期待をしている。

滑東的Withコロナ

滑東コミュニティ協議会

令和二年度は、新型コロナウイルス感染症のために活動が制限され、多くの事業や行事が中止となりました。

五月からは、一か月の休館。その後、開館はしても団体、サークルの方々が自主的に活動を控えるなど、今までにない日常となりました。また、センターは不特定多数の方が利用されるので、感染拡大防止のために毎日の消毒と換気、予防のための広報など

様々な対応にも追われていきます。これらは、他の公民館やコミュニティセンターでもご苦労されていることではないでしょうか。

中止となり残念だったの

が、「福祉まつり」や「木工教室」、「カローリング大会」など、子ども達とのふれあい交流ができなかったことです。また、「敬老会」、「昼食会」など、全て中止となり、高齢

者の方々の元気な顔を拝見する機会が無くなってしまいました。運営面はともかく、地域のつながりが薄れていく焦燥を感じています。

そんな中、十二月六日に地





域清掃を実施。地域の方々とコミュニティセンター周辺・四所神社・県道沿いのゴミを収集。屋外での活動となることや感染予防を徹底することで、久しぶりの活動となりました。また、一月三日には「新成人のお祝い」を開催。こちらは室内ということで、大きな不安もありましたが、できる限りの対策を考えて準備。当日は、澆測とした多くの新成人が参加し、華やかで和やかな一日となりました。終了後は何事もなく、関係者一同安堵することができました。



やはり公民館、コミュニティセンターでは、顔と顔を合わせ、声を掛けあい、ふれあうことが大切だということ強く感じました。

三年度は、昨年以上に厳しい状況となることが予想されます。ワクチン接種もいまだに先が見えません。自分や大切な人々を守るためには、正しい情報を正しく理解し活用することが重要です。これからも感染症との共生、「Withコロナ」で様々な情報を発信していければと思います。

コミュニティと防災

南井上地区自主防災連合会

会長 鎌田 仁

東日本大震災後十年が経過しましたが、未だ復興途上にある未曾有の大災害であります。本県には復興を妨げる原動力施設はありませんが、将来発生するであろう東南海・南海地震では、このクラスの災害が想定されています。

先の地震では地域住民の助け合いと、ボランティア活動が大きな力を発揮し、絆という言葉が生まれました。災害が大きければ大きい程公的機

関も被災しているものと想定しなければなりません。自分達の地域は自らの結束で守る「自助・共助」が最も重要ではないでしょうか。

当地区は沿岸部から遠く、津波到達外ではありませんが皆無ではありません。液状化や揺れで家は倒壊し、閉じ込められる負傷者も多数出ることが想定されるでしょう。

公助が余り期待できない以上町内会、特に班は共助の中心的存在になると共に、町内会での小さなコミュニティであるものと定義付けています。

避難生活を余儀なくされた方々の快適な生活を構築するため運営規定やマニュアルを作成し、総務・施設・救護班等の班を作り避難者のプライバシーを保護するためのハード面の設備充実を図っています。

またソフト面に



於いては高齢者社会に対して、倒れている高齢者に遭遇した時、「バイスタンダー」として、その人の社会復帰を一秒でも早く手助けできる様、救急救命士の指導を得て、男女五十名の応急処置が出来る方々を養成しました。ハードとソフト面を並行して防災の充実を図っています。

コロナ感染拡大中であり、三密を避けながらも人命救助のためのロープワークや避難所運営マニュアルに基づき、総務班、施設班の訓練を実施

し万一に備えて縮小した活動を実施しており、コロナ終息後はハード・ソフト両面を

並行しながら、地域住民の災害リスクを少しでも軽減できるよう、地域の防災担当者、防災士一丸となって活動に取り組む覚悟で地域が一体となつていきます。

「自分の命は、自分で守れ！」

自助が確保できれば、隣の「おっちゃん・おばちゃん」と輪が広まり、



ついには、町内会の絆に繋がるものと思います。

子どもと共下

四季の会 代表 中畑英美子

コミセンでは、毎年夏の日よけ対策にゴーヤを植えています。小学一年生の児童と、町づくり協議会の役員とで植えられた苗は、手入れが良く、屋根まで届くほどに伸び、多くの実をつけます。

平成二十六年八月、コミセンに仲間が集まり、ゴーヤを使った料理をしました。それをきっかけに、料理クラブ「四季の会」が発足しました。

二十七年の四月より、一宮幼稚園の休園が決まっていたので、何か思い出に残ることをしようと、三月、二人しかいなかった園児と一緒におはぎを作り、楽しく会話をしながら食事をしました。

この年の十月、学校の依頼で、五年生の全児童三人と味噌汁を作りました。

十一月、学校の学習発表会で、市内から参加していた大勢の先生方の前で、三人は落

ち着いて味噌汁を作っていました。

それをきっかけに小学校との交流が始まり、毎年夏には、学校の調理室で、高学年の児童とゴーヤを使った料理をし、低学年の児童には、ゴーヤジュースを飲んでもらいました。

秋にはコミセンに来てもらって、児童が学校菜園で育てたさつまいもを使った料理をしました。

昨年二月の放課後、コミセンで、子どもカフェを開きました。保護者への案内や参加人数の取りまとめなど、学校の協力を頂き、迎えに来た保護者や兄弟も一緒に、手作りの三色ドーナツを食べました。今年の一月には、



芋餅配布風景

子どもカフェを開くことが出来ず、会員で芋餅を作り、学校の協力を頂き、下校時、児童に手渡しました。その中に、六年前は幼稚園児で、一緒におはぎを作った児童もいました。あの時から、何時も顔を会わせると笑顔で手を振ってくれていました。「大きくなっただね！」

これからも、学校や町づくり協議会の協力を頂いて、地域の子とも達との交流を続けていこうと思っています。

(一宮下町町づくり推進協議会)

技芸教室の集い (歩み)

丈六公民館技芸教室 代表 上野 良夫

技芸教室は丈六コミセンを拠点とし、デジタル化の時代であり、写真コンピュータクラブとして編集等の写真のわざを学ぼうと前館長さんの声掛けにより、立ち上げられた写真教室です。

写真教室は月一回の例会で



各自の持ち寄った旬の写真を展示コーナーに常時展示しております。春夏秋冬、季節感のある風景、イベントを求めて撮影会に出かけます。技術を学ぶ実践の場です。

出ない、アドバイスを受けながら、作業を進めます。感性を尊重し、初歩的なピンぼけは助けられませんが、最近は編集作業時間も短縮できるようにになりました。



「あと一歩前に寄れば」「あと一歩後ろに下がれば」「何が撮りたかったのか」よく言う言葉です。撮影中、編集集中、苦勞しながら、約八

年間、継続できました。プリントし、タイトルを作り、展示し、一連の作業が終わりればホッと、頭安堵します。頭の中は次の作品は何を撮ろうかと切り変わっています。

写真作品展に応募するとかでなくとも地域の皆様、コミセンに來られた皆様に見えただく事が励みになります。できるだけ地域の写真を撮るよう心掛けています。

館長さん初め皆様にはお世話になり、展示コーナーの場を提供いただき感謝です。毎月、展示写真は入れ替わります。皆様に写真を通じ、季節を感じ、少しでも心が休まれば嬉しいです。

（丈六コミュニティ協議会）

編集後記

新型コロナウイルス感染症の影響が二年目に入り、変異種まで出て先が見えませんが、ようやくワクチン接種が始まるようで明るいさざしが見えてきました。

さて、九十号をお届けします。内町まちづくりからは、ボランティアガイドの活躍を通して小学校との連携を図っています。沖洲では、三月に開通した自動車道の紹介です。応神では、「くれば会」の活動でお年寄りの憩いの場づくりの様子です。渭東では、感染症で活動が制限された中での取り組みを紹介しています。

南井上では、避難所の防災訓練の様子を紹介しています。一宮下町づくりからは、「四季の会」と小学校の連携を通して地域の活性化と町作りの様子です。丈六からは、写真教室の活動で会員の生き生きと活動している様子の報告です。

これからもみなさまのご協力によりコミュニティ活動が活発になりますよう、また、一刻も早いコロナの終息を祈るばかりです。

（大川良文 記）